

平成26年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

東北ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子をあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて9頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 登録基幹技能者制度の概要に関係する用語のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 生産性の向上
2. 施工方法の提案と調整
3. 元請の補佐役
4. 経営者

問題 2 登録左官基幹技能者講習を受講するための要件に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 10 年以上の左官の実務経験
2. 経営者としての経験年数 3 年以上
3. 左官技能士等の資格の保有
4. 左官職長としての経験年数 3 年以上

問題 3 左官技能者の 4 つの職階に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 上級職長または登録基幹技能者
2. 上級左官技能者
3. 中級左官技能者
4. 基礎左官技能者

問題 4 登録基幹技能者の現場業務の実態における前工程・後工程に関する職長との調整の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 前工程・後工程の両方を調整している
2. 前工程のみを調整している
3. 各職種で独自の工程表を作成し、他職種とは関係なく実施している
4. 後工程のみを調整している

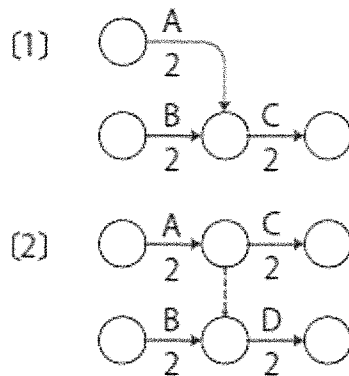
問題5 元請ゼネコンの登録基幹技能者における優秀職長または優秀職長手当制度の名称に対応した支給金額に関して、最も不適当なものはどれか。

1. T建設「優良技能者手当制度」：日給 500 円
2. O建設「(通称) スーパー職長」：日給 2,000～3,000 円
3. N建設「マイスター・シニアマイスター」：日給 2,000 円・3,000 円
4. M建設「コンストラクション・マイスター制度」：日給 12,000 円

問題6 OJT教育における指導方法において「自己啓発を行わせる」ことの内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 仕事の難易度等とは関係なく早期に目標を決めること
2. 実施可能な指導方法であること
3. 知識の習得と体験の組み合わせを作ること
4. 部下の成長する条件を考えること

問題7 下図のネットワーク式工程表の一部分[1]および[2]に関して、最も不適当なものはどれか。



1. [1] においては、A・B 作業を先行作業、C 作業を後続作業という。
2. [1] においては、A・B 作業がともに終了しないと C 作業は開始できない。
3. [2] においては、C 作業は A 作業が終了すれば開始できる。
4. [2] においては、ダミーに関係する A 作業および B 作業のどちらかが終了すれば、D 作業は開始できる。

問題8 建設業法遵守ガイドラインの各内容のどのような行為が建設業法に違反するのかを具体的に示している例に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 給与条件の提示
2. 当初契約
3. 追加工事等に伴う追加・変更契約
4. 工期変更に伴う変更契約

問題9 建設工事標準下請解約約款の「建設工事下請契約書」に記載されている内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 請負代金の支払の時期及び方法
2. 弁護士
3. 元請負人の住所・氏名
4. 下請負人の住所・氏名

問題10 ブレーンストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 6～9人程度の人数で行うと、適切な情報をうまくまとめることができる。
2. 競争心が多い人と、自由で無関係な意見を述べることができる。
3. 友人感覚で誰もが楽しく話し合いをすることができる。
4. 連鎖反応により多くの情報を得ることができる。

問題11 左官工事に要求される品質管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 仕上げ表面は、常に硬度が高いこと。
2. 真壁においては、仕上げ面が平坦であること。
3. 色調平滑度または粗面度等の仕上げ面の状態が、全壁面に関して一様であること。
4. 設計上要求される耐火、防水、遮音、吸音、断熱、湿温調節などの性能を備えていること。

問題 1 2 仕様書等の組み合わせに関して 最も不適当なものはどれか。

1. (一社) 日本左官業組合連合会編 - 左官施工法 2013
2. 特記仕様書 - 標準仕様書で指示する一般的な工事の仕様
3. (一社) 日本建築学会編 - 建築工事標準仕様書 JASS 15 (左官工事)
4. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 - 公共建築工事標準仕様書

問題 1 3 ALC パネルの記載に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ALC パネルは、工場でオートクレイブ (高温・高圧養生) した超軽量コンクリートのことである。
2. ALC パネルには、一般的に厚塗りをする。
3. 地震時などの躯体の変形時に外壁用または間仕切壁用パネルが損傷を受けないように、ALC パネル間に伸縮目地を設ける。
4. ALC パネルの欠損部の補修には、パネルメーカー仕様による補修用モルタルを使用する。

問題 1 4 JIS A 6909 (建築用仕上塗材) の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装せっこう系厚付け仕上塗材 - 内装厚塗材 G
2. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 - 外装薄塗材 E
3. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 - 内装薄塗材 C
4. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 - 内装薄塗材 W

問題 1 5 床の左官工事に関する記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セルフレベリング材塗りの設計塗り厚は、20mm とし、5mm 未満とする。
2. 防水モルタルは、防水性のあるセメントモルタル塗りで仕上げることである。
3. シーリングとは、水や空気を完全に密封することである。
4. モルタル防水の施工は、防水工事業の許可が必要である。

問題 16 コンクリート表面の処理方法等の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 高圧水洗浄は、必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが少なく、施工管理が比較的容易である。
2. 専用シートによる凹凸処理は、吸水調整材を塗布した場合と同じ状態にすることができる。
3. ブラシ掛けの作業は簡易であるが、施工管理が曖昧となりやすく水洗いを併用する必要がある。
4. サンダー掛けは、ディスクサンダーあるいはカップサンダーによりコンクリート表面を目粗しし、水洗いにより表面に付着した粉じんを除去する。

問題 17 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

熱冷ムーブメントとは、塗りつけられたセメントモルタル等に1. 太陽の直射熱や2. 昼と夜の繰返しの乾燥と湿潤に伴って3. 伸縮、反り等の変形挙動がおきる。これを4. サーマルムーブメントという。

1. 太陽の直射熱
2. 昼と夜の繰返しの乾燥と湿潤
3. 伸縮、反り等の変形挙動
4. サーマルムーブメント

問題 18 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の吸水大 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
2. 目地処理不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
3. さび止めしない鉄部 — さび発生（せっこうプラスター） — さび止めを行う。
4. ドカ付け — ひび割れ — つけ送りをを行う。

問題 19 現場の事前調査に必要な検討事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 施工に関係のある水文気象。
2. 文化財及び地下埋設物などの有無。
3. 計画地周辺の公共施設の有無。
4. 地形・地質・土壌・地下水の状況。

問題 20 建設副産物に関して、最も不適当なものはどれか。

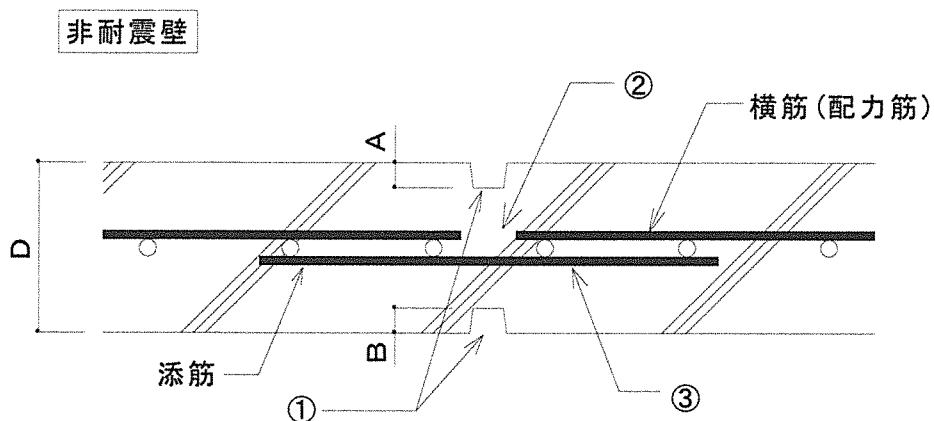
1. 建設副産物とは建設工事に伴い副次的に得られた物品であり、工事現場から排出される再利用の可能性があるものである。
2. 資材有効利用促進法に規定された指定副産物はアスファルト、コンクリート塊、建設発生木材、建設発生土（土砂）である。
3. 建設リサイクル法に規定された特定建設資材廃棄物はアスファルト、コンクリート塊、建設発生木材である。
4. 建設副産物対策は事前調査結果を基に、発生の抑制、再利用の促進、適正処分の徹底を基本原則とする。

問題 21 原価管理の要点に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 日々の工事管理の過程で詳細な工事記録を作成し、実施原価を把握する。
2. 工事進捗の主な段階で、実行予算と実施原価との違いを確認する。
3. 原価比率の低いものを重点に置いてコスト縮減を図る。
4. 物価の動静に常に目を向ける。

問題 2 2 下図のような、非耐震壁のコンクリートひび割れ防止対策について、最も不適当なものはどれか。

1. ③のように、横筋（配力筋）を切断した場合は、添筋等で配筋の乱れを防ぐ必要がある。
2. 非耐力壁では、一般的に 5 m 以内に伸縮目地を配置する。
3. ②のように、伸縮目地を取り付ける部分の横筋（配力筋）を切断すれば、より効果的である。
4. ①の部分に、取り付ける伸縮目地は、 $(A+B) / D \leq 20 \sim 25\%$ 以上の断面欠損寸法を確保する必要がある。



問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建設業の安全対策が難しい理由の一つとして、多業種の専門工事業者が作業しているため、各作業間の連絡・調整を図るのが困難であることが挙げられる。
2. 建設工事全体の死亡事故の型別でみると、建設機械等による事故が 45% と圧倒的に多い。
3. わが国の建設業における近年の死亡者数は、年に 300 人を超える。
4. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡する災害のことをいう。

問題 2 4 法で定められた建設現場における安全管理についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努め、廃棄物は決められた場所に捨てることを徹底する必要がある。
2. 作業主任者の配置が必要な作業として、高さ 5m 以上の足場の組立または解体の作業がある。
3. 労働安全衛生法では、安全衛生教育として雇入時の雇入時教育は必要であるが、作業所への新規入場者教育は任意となっている。
4. 複数業者が混在する現場の 1 次下請けや 2 次下請けの業者は、安全衛生責任者を選任する必要がある。

問題 2 5 各種労働災害防止対策についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 玉掛け作業を行う場合、玉掛け技能講習を修了した者の中から玉掛け作業者を指名する必要がある。
2. 既存建築物は石綿が使用されているものも多く、その建築物の解体工事では石綿による健康障害防止対策を講じる必要がある。
3. リフォーム工事では、電気やガスなどを止めずに行うので、電線への接触による感電、ガス爆発などに注意する必要がある。
4. 高さ 1.2m 以上の所で 足場作業や鉄骨作業などを行う場合、作業床を設置しなければならない。これが困難な場合は、落下防止ネットを張り、作業員に安全帯を使用させる必要がある。